

わたしたちに出来ること

3・11からもう3年あまりの歳月が過ぎた。
時の流れは速いけれど、記憶の中に永くとどめ続けることが、
わたしたちに出来ることであり、なくてはならないこと。
3・11を忘れないために、小さな灯をともし続けていきたい。

毎朝新聞が届く ありがたさ実感

我が家には毎朝6時に新聞が届きます。震災後18日から
22日まではガソリン不足からか？届きませんでした、そのあ
いだのなんと心細かったことか。配達が開された時には
本当に嬉しくて震災以来初めての明るい出来事でした。と
ころが、27日朝6時になっても新聞が届かずがっかりしてい
たところ、7時に新聞が届いた物音がしました。玄関まで出
てみるといつもの配達の人がなんと自転車で来られていま
した。びっくりして「ありがとうございました」と声をかけてみ
たところ「ガソリンがなくてねえ」と答え、次の配達先へと向
かって行かれました。ここは山間地で家と家が離れていま
す。配達の方は60代とお見受けしました。配達が終わるま
でにいったいどの位の時間がかかるのかと考えると感動し
てしまいました。「新聞が届く」この何でもないと思えた日常
が本当にありがたく、たくさんの人や物に支えられていたと
気付かされました。震災後無力感にさいなまれ今一つ元氣
がでませんでしたが、自分の仕事を淡々とこなしていくこと
が周りの人を元気にして、かけがえのない日常を守ることに
なると、新聞配達の方に教えていただいた気がしました。

福島民友 2011年4月3日付
朝刊読者投稿欄より



平成27年(2015) 1月

No.62

発行／特定非営利活動法人 りんりん
半田市岩滑高山町5丁目4番地
TEL(0569)21-3646 FAX(0569)32-6623
http://rinrin.or.jp E-mail npo@rinrin.or.jp

ありがとうございます
皆さまのあたたかいご支援が
りんりんを支えています。

ご寄付ありがとうございます

石川 晋 木村 静子
鈴木 文代 高山 利光 (敬称略)

平成26年度賛助会員

匿名 (敬称略)

りんりんのできごと

11月2日 りんりん20周年記念式典
“ズーラシアンブラス”コンサート 雁宿ホール

～ ヘルパー研修会 ～

10月 外部研修発表会・茶話会 44名
11月 インフルエンザ予防注射 43名
12月 今日から活かす！傾聴講座 43名



多世代交流事業

	10月	11月	12月
生き活きサロン	199名	171名	142名
さをり織り	42名	32名	20名
絵手紙	17名	24名	休み

(延べ利用人数)

会員数

賛助会員	利用会員	協力会員	合計
50名	64名	114名	228名

(H26/12月末現在)

特定非営利活動法人 りんりん



あけましておめでとうございます

りんりん創立20周年記念コンサートには、1000人を超える方に足を運んでいただき、ありがとうございました。ちいさな子どもさんからおじいちゃん・おばあちゃんまで世代を超えて一緒に音楽を楽しんでいただけたと、スタッフ一同安堵しております。

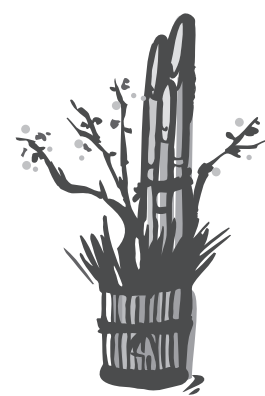
昨年10月から3回にわたり、NPO法人“サポートちた”さんと「ちた型地域包括ケアのまちづくり」をテーマに小円卓会議を持ちました。地域包括ケアは、急増する高齢者福祉の視点から発案されたものですが、実は高齢者のためだけに必要なものではありません。まちに暮らす赤ちゃんから小中学生・若者・そして長く暮らしてきた高齢者まで、すべての世代にかかわっていくことであり、つまり「まちづくり」そのものだと改めて確認できました。

「あれっおかしいなあ…あのお客さん」「あれっ、あのおじいちゃん、なんであんな所にいるのかな？」と子どもが気づいたら、「ここに伝

えるんだよ」とみんなにわかる拠点(窓口)がある。また「隣のS君じゃないか、どうした？」と大人が子どもに声を掛ける。世代を越えて見守りし合う。それぞれに役割を持つことは、包括ケアにもまちづくりにも不可欠だと思います。

医療や介護のプロだけでは包括ケアはできません。「小学校応援隊」「お助け隊」と、円卓会議でできたご縁を繋げてまちづくりを進めていきたいです。そしてりんりんが、「ここに伝えるんだよ」のその拠点になれるように……。

代表 下村 裕子



～りんりん20周年に寄せて～

満20歳を迎えたりんりんの記念コンサート、大勢の方々と一緒に楽しむことができたひとときでした。下村理事長のごあいさつの中に「赤ちゃんからじいちゃん、ばあちゃんまでみんなで支えあいまちづくりを進めてまいります」とありましたが、当日の開演前に広場で乳児を抱っこした方、幼児の手を引いた方、介護者に付き添われる高齢の方々があり、りんりんの目指す光景がここにあるとおもわれました。また、久しぶりの再会を喜び合う仲間の声や様子を目にすることができうれしいことでした。

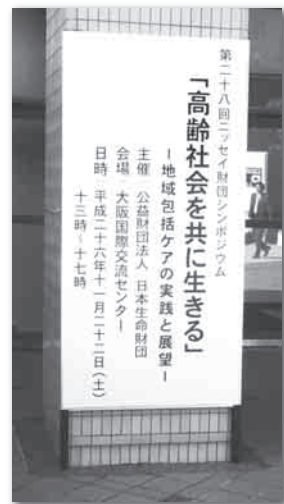
会場一杯の方々と一緒に、我が家の5歳と1歳の孫たちも初めてのコンサートを楽しむことができて幸せでした。舞台上で演奏者の動物さんたちが眠ってしまったとき、子どもたちの「起きてっ!!」という大合唱が起こり、その素直で大きなエネルギーに感動しました。

今、日本は大きな不安や問題を抱え、将来の社会に対して希望はあまり持てませんが、りんりんが市民活動を20年継続し、さらに社会が求めるものを創り上げていこうとする姿に希望を見出しています。じいじもばあばも出来ることで協力し、みんなで安心できる社会をめざしていきたいと思っています。

顧問 村上真喜子



近隣の見守りシステム 「ごんの灯」発表会



平成26年11月22日(土)大阪国際交流センターにて開催の第28回ニッセイ財団シンポジウムに岩滑区の方々といっしょに参加しました。平成23年10月から岩滑区、社協、りんりんと協働で取り組んできた「防災から安住のまちづくりへ」の最終発表を聞くことが目的でした。

開会にあたり、日本生命財団理事長加藤貞男氏がニッセイ財団の長年の福祉事業への助成の成果を話され、その後「地域包括

ケアシステム構築にむけてー未曾有の高齢社会に備えるー」というテーマで慶応義塾大学名誉教授田中滋氏の基調講演がありました。

世界が注目する高齢社会日本で2025年から2040年をにらんだ地域包括ケアの仕組みを行なっていくことが重要。首長の強いメッセージがないところは取り残されてしまう。地域力をどう活用していくかなど課題をいただきました。

その後、前岩滑区長の後藤章二氏より助成事業の取り組みの発表がありました。たくさんの事業を実践してきましたが、やなべ光システム「ごんの灯り」についての発表は会場に来ていた方も興味深く聞き入ってくれました。発表を終えて、岩滑地区の今回の取り組みは先進的なものだったことを実感するとともに、「ごんの灯り」を通して見守りから地域包括ケアの実践を考えていかなければと、思いました。

(株)豊田自動織機様 ボランティアありがとうございました

11月16日(日)(株)豊田自動織機社会貢献グループ 東知多工場 班長会と学友会13名の方々が今回6度目のボランティアに来てくださいました。草取りや2階の窓ふき、普段手の届かない高い所などの作業をしてくださり、とてもきれいになりました。作業後は、「日曜料理グループ」の作った出来たての豚汁を振る舞うと、皆さんよろこばれました。



りんりんでの サービスラーニング活動を終えて

私たちは児童や高齢者など年代が全く違う人と接する機会があまりなかったので、今回コミュニケーションをとる際に「何に気を付けるべき」なのか学びました。

子どもたちと一緒に過ごす中で「～してはいけない」ではなく「～してほしい」というように肯定的な言葉かけをするとよいと、わかりました。注意するというよりも、快・不快を素直に表現して、相手の子に「○○しないで○○してほしい」と伝えていかなければならないこと、そしてしっかりと判断して動くことが大切だ、と感ずることができました。

また、子ども同士でもめた時に、お互いの意見を聞いたうえで子どもたちにどうすればよいのか考えさせることも重要だ、と学びました。

一方、高齢者の方にはどう接したらいいのか戸惑うことも多かったです。私から話しかけないと話が続かず、人生経験が豊かな方ばかりなので失礼のないように会話するというのに、とても神経を使いました。

日本福祉大生参加者の感想文より抜粋

りんりん
20周年
記念

親子のためのクラシックコンサート 「ズーラシアンブラス」

創立20周年を迎えたりんりんは、小さなお子さんからご年配の方まで楽しめる「ズーラシアンブラス」のコンサートを開催しました。

当日は雨のぱらつくお天気でしたが、1300人収容の雁宿ホールはほぼ満席。クラシックコンサートですが年齢制限は無いので、親子連れのお客様が大勢来てくださいました。赤ちゃんも大丈夫、ご両親やおじいちゃん、おばあちゃんのお膝が指定席です。

舞台上に登場したのは、タキシードをビシッと着こなしたダンディな希少動物たち。指揮者はオカピです。インドライオン、マレーバク、ホッキョクグマ、スマトラトラ、ドゥ克蘭グールは、金管5重奏を演奏します。さらに花を添えたのはドレスアップした弦(つる)うさぎさんたち。優雅にピアノとバイオリンを奏でます。曲名は全13曲、「ウィリアムテル序曲」「アナと雪の女王」など親しみのあるものばかり。ユーモアを交えた演出は楽しく、本物の音色は小さな子どもたちの心までも届いたようです。

